

## モンゴル族刺繍無形文化遺産の代表者—白晶瑩のオーラルヒストリー

蘇日娜

訳 ソロンガ

本テキストはモンゴル族刺繍旗級無形文化遺産伝承者であるモンゴル人女性、白晶瑩さん(写真1)のオーラルヒストリーである<sup>1</sup>。白晶瑩さんの出身は中国内蒙古自治区(以下、内モンゴル)ヒンガン(興安)盟ホルチン右翼中旗<sup>2</sup>(以下科右中旗もしくは中旗)である。白晶瑩さんは長く地方幹部を務めた後、貧困撲滅政策の下、刺繍関連会社と貧困扶助サービス協会の設立を通じて、刺繍と貧困撲滅政策を結びつけ、モンゴル族刺繍の産業化を推進している。



写真1 白晶瑩さん(2023年7月撮影)

白晶瑩さんとの出会いは2023年の夏だった。2023年8月6日から12日まで、筆者は中央民族大学の夏期実習団を率い、内モンゴル自治区ヒンガン盟ホルチン右翼中旗バヤンホシュ(巴彦呼舒)鎮に赴き、トゥシエト(图什业图)民間刺繍の国家無形文化遺産の現地調査を行った(写真2)。その時、白晶瑩さんにインタビューをすることができた。取材当日は、白晶瑩さんがデザインした長さ30メートル、幅2.6メートルの刺繍作品である「我们的美好生活(私たちの幸せな生活)」<sup>3</sup>の完成式と

<sup>1</sup> 本稿は中国語の原稿をソロンガが日本語に翻訳したものである。ただし、本稿の導入文と訳者あとがきはソロンガによる。脚注で訳者によるものには(訳注)と記した。

<sup>2</sup> 中国語で科尔沁右翼中旗という。ホルチン右翼中旗は、内蒙古自治区東部、興安盟南部、大興安嶺南麓、ホルチン砂地北端に位置し、8つの旗、県(市)に隣接する。総面積は15613平方キロである。

<sup>3</sup> 中国語の名称。

重なった。朝 8 時半から、白晶莹さんは確認、製本、展示の準備に追われていた。完成式後、午後の 7 時からインタビューを開始した。その時、私たちは「少し休憩しましょうか」と声をかけると、白晶莹さんは「いつも忙しいのよ。忙しくても元気です。2016 年からもう 7 年になりますが、ほとんど朝 5 時に起きて夜 11 時に休む慌ただしい毎日で、休日もなく活躍しています。友人や家族の集まりにもすべて出席していません。それでも時間が足りないと感じています」と笑顔で答えた。



写真 2 白晶莹さん、刺繍工及び中央民族大学夏休み実践団

——ご出身、両親、兄弟、親戚、家族、子供、小さい頃の面白いこと、仕事について話してください。自由に話してください。

私は 1963 年 4 月生まれで、今年（2023 年）60 歳です。出身は今のヒンガン盟ホルチン右翼中旗です。父の白泉はヒンガン盟ホルチン右翼中旗モンゴル病院の会計士で、1998 年に亡くなりました。母は未年で、今年 81 歳です。仕事をしていません。母は上品で手先が器用で、その時代の中でもかなりの教養のある人でした。今 80 代の高齢といえ、考えがはっきりしていて、モンゴル文字もきちんと読み、刺繍もしています。毎年各家族一軒一軒に何か刺繍をしてあげています。みんなのために小さい枕、ストラップ、小さい袋などを刺繍します。私の母は特に心優しく、寛容で、どんなに大変なことでも大目に見てくれます。母はどんなことにも解決策があるとよく言います。

私は 7 人兄弟の一番上です。当時はミシンもなかったので、母が洋服やズボンを作ったり、靴に刺繍を施したりするときによく私にこまごまとしたことを言いつけました。たとえば、母が何かの絵を描くときは、「早くチョークを持ってきて、のりを作って」など、そういうことを言われました。

私が 8、9 歳のころには、すでに靴ひもを切ったり、花を描いたりしていました。10 代の頃には洋服を作れるようになりました。お正月には、正月用の年画<sup>4</sup>を買わないで、私は紙とクレヨンを持って

<sup>4</sup> 年画は中国人の春節期間に生活環境を装飾するための装飾画である。主に新年に掲示され、環境を

きて、自分で年面を描いて壁に貼ります。そういう家庭環境で育ったので、刺繍が趣味になり、刺繍ができる基礎ができました。何もしていない暇な時、私は家で花を描いて、そんなたくさんの花の絵を家に積んでいました。偶然、自治区文学連盟の人が私の家に来て、私が描いた花を見つけて、その絵を持っていったので多くの人が私を知るようになりました。それ以来、よく花を描くよう私に頼む人が多くなりました。

うちは家庭教育がとても厳しかったです。祖父は文人で、「白晶瑩」という名前は祖父がつけたのです。私は5、6歳の頃から壁の下で文字を書き始めました。毎晩は文字の書き練習をさせられ、朝は読まされていました。文字をうまく読めば飴がもらえ、書けなければ手のひらを棒で叩かれました。4、5歳の時には物事を理解するようになっていたので、当時は学校の成績がよかったのです。私は家の一番上の子だったので、家の管理やあれこれの世話をしなければならず、小さい頃はずいぶん苦労しました。小さい頃の経験が私を鍛え、将来の基礎を築いたのです。

子供の頃、共同組合の商店<sup>5</sup>に行き、2毛<sup>6</sup>のものを買ったかったが、間違っって他のものを買ってしまったことがあります。父は私が不真面目だからと言って、また商店に戻って、買ってくるように言いました。私はさらに20里<sup>7</sup>ほど歩いて商店へ行き、それを取り替えてもらいました。父が言いたかったのは、仕組んだことも、言ったことも、頼まれたことも、きちんとこなさないとダメだということでした。それが父の考えでした。だからわざわざ歩いて往復し、正月の買い物をしたのはたったの2毛のものでした。私はこのことに対して不満を言うことはありませんし、親の言うことは大事なので聞き流すこともありません。私はいつも親に言われたことを必ずやりとげます。子供の頃、私は成績が良かったし、ほかの兄弟も成績が良かったです。我が家には1つのルールがあります。父の給料はあまり高くなかったけど、小遣いとしてみんなに毎月1元ずつを渡していました。試験で95点以上を取得した者には、必ず2毛のご褒美が与えられていました。その時代では2毛は特に大きな金額で、大事な時にだけ取り出されるものでした。

当時、アイスキャンデーは1本3分銭<sup>8</sup>でした。ある日、弟は特に喉が渴いていたので、アイスキャンデー売場の前に立ち、お小遣いから2毛出して、アイスキャンデーを買おうとしました。しかし、どんなにほしくても買わずに2毛をもとに戻し、水槽中の冷たい水を柄杓ですくい、ゴクゴク飲んで教室に駆け込みました。用心深さ、儉約と質素、勤勉と忍耐が我が家の伝統でした。私の弟も妹も、今でもそうやって自分の生活をきちんとしており、みんな元気に暮らしています。現在、妹たちは中

---

装飾するために使われ、新年を祝福し、めでたいという意味が含まれている（訳注）。

<sup>5</sup> 中国語で供销社という（訳注）。

<sup>6</sup> 毛は中国の紙幣の単位。1毛は日本円で2.155円（2024年12月10日現在）（訳注）。

<sup>7</sup> 20里=10km（訳注）。

<sup>8</sup> 分銭は中国の紙幣の単位。1分銭は日本円で0.2155円（2024年12月10日現在）（訳注）。

旗、弟はウランホト<sup>9</sup>に住んでいます。私たちは今、とても賢いとか、何でもできるとかと言われていますが、実は私たちの家庭環境が昔からそうだったのです。その後、私は家庭を持ちました。夫は私たちの地域で最初の大学生で、内モンゴル農牧学院<sup>10</sup>の草学科を卒業しました。当時の大学生はフフホト<sup>11</sup>に残ることができる人ばかりでしたが、私の夫は故郷に帰ってきました。だから、家族の雰囲気は勉強と創造に満ちていました。独立で、苦しみに堪え忍ぶことができることは今までも私達の生活の伝統です。私たちはほとんど無駄をしないです。例えば、服やズボンが穿けなくなると、穿けなくなった衣類を背負って田舎の親戚に送ったりします。

今は母と息子と私の3人で暮らしています。夫が亡くなってからもう10年以上になりました。母はとても健康です。母の一族はみんな長寿です。母の2番目の叔母は102歳まで生きました。私の祖母の4人の姉妹と子どもたちはみんな90歳まで生きました。家庭はとても平凡です。私自身の健康状態も良いし、息子も一人前の男になり、外で働いているので、私は安心して仕事に打ち込むことができます。息子の胡永澤は1989年生まれです。息子が私を感動させたことが3つあります。高校生の時、靴の釘打ち職人にトレーナーの靴底の交換を頼み、靴底を替えて持ってきました。なぜ持ち帰ったのかと尋ねると、

「靴底を交換し、おじさんの家の子供に履かせて畑仕事をさせたほうが、少しでも節約できる」と言いました。そしてある日、息子の手ぬぐいが破れて大きな穴があいてしまったので、私は

「息子よ、手ぬぐいはこんなに破れているから使わないで」

と言いました。彼は、

「母さん、こっちはまだ使えるから、使えなくなったら買うよ」

と言いました。息子が幼い頃、私の母は数年間息子に付き添って学校に通っていました。その時、私の母の歯が良くないため、私はいつも母に牛乳を買ってあげていました。ある日、息子が

「おばあちゃん、たまには普通の水でもいいから、牛乳代を節約して、母がお金を使わないようにしてくれない？ 私たちは無駄遣いをしないほうがいい」

と言いました。当時は本当に感動しました。毎月、息子にお小遣いを渡すと、それを貯めて私の母に渡していました。昔も今もそうなんです。

うちの刺繍嬢<sup>12</sup>たちはお金が回らなくて、特に困ったときとか、入院することになったときとか、急に大事なことがあったら、私はすぐに解決してあげます。私は自分の資金がなくなっても、自分の給料まで全部出しても、彼女達を助けて、彼女達の事を何とかしなければなりません。お金がない時

---

<sup>9</sup> ヒンガン盟人民政府所在地（訳注）。

<sup>10</sup> 現在の内モンゴル農業大学。

<sup>11</sup> 内モンゴル自治区の首府（訳注）。

<sup>12</sup> 刺繍をする仲間たち（訳注）。

は、まず息子に相談します。息子はお金がないと言ったことはありません。いつも「あげるよ」と言います。息子もとても節約家で、洋服もシンプルで、ブランド物も一切買わないです。だから、息子も私の代わりにたくさんのことを責任もって引き受けてくれます。

——仕事と刺繍についてすべて話してくれませんか。自由に話してください。

キャリアウーマンの私は、幼い頃、息子と一緒にいる時間がなかったこともありました。そばにいることはできなかつたけれど、子供の頃から今まで、毎日 30 分は欠かさず息子と話をしました。また、私がいつまでも怠けているわけではないこと、仕事があって息子の面倒を見ることができないこと、息子は一人で自立して生きていくことを知ってもらうため、息子に 3 つのことを求めました。第一に、万引きはしません。人のものを盗んではいけません。お金がなければ借りることができます。第二に、他人を利用することは最悪の道徳であり、他人を利用してはならない。第三に、すべての人に親切にしなければなりません。親切が第一です。私の言うとおりの息子は長年そうしています。

ここ数年、私は休みもなく、遅刻もなく、ほぼフルタイムで働いてきました。毎朝定時に出勤して、与えられた仕事を一生懸命にやり遂げてきました。私は 1979 年に通遼<sup>13</sup>保健学校を卒業し、モンゴル医学を勉強し、卒業後病院<sup>14</sup>で 6 年間働きました。その後、社会人大学入試に合格し、内モンゴル師範大学政治教育学科<sup>15</sup>に入学しました。卒業後、組織の再調整により、私は中旗の婦人連合会<sup>16</sup>で働くことになりました。それで、私は長年間政治に携わってきました。

若者にとって、専門性の高い能力を持つことが大事ですが、成長の機会は人によって異なります。若者は発展のチャンスをつかむべきです。私はチャンスをつかんで、大切にしていきたいと思います。すべての人はさまざまなチャンスを持っていて、ただある人はつかむことができ、ある人はつかむことができません。つかまえば発展するし、つかまらなければ他人に遅れます。だから、私はモンゴル医学を学んで良い仕事をしていましたが、その後、社会人大学入試に合格し、入学することができ、党と政府の機関に働くことになりました。これはチャンスをよくつかんで努力したためです。そして、働いている間も仕事を優先し、自分の第一責任と考えていました。家に用事があったり、仕事に用事があったりすると、必ず仕事のことを第一に考えて、何年もこのようにやってきました。私は常に組織から高く評価され、昇進してきました。定年を迎えようとした時は、ちょうど国の

---

<sup>13</sup> 通遼市のかつての行政名は哲里木盟で、内蒙古自治区管轄地級市である。

<sup>14</sup> 1979 年 12 月～1982 年 5 月、中旗モンゴル病院に勤務。1982 年 5 日～1986 年 7 日、中旗人民病院に薬剤師として勤務。

<sup>15</sup> 1986 年 7 月～1989 年 9 月、内モンゴル師範大学で政治教育を専攻。

<sup>16</sup> 1989 年 9 月～1997 年 3 月、中旗婦女連合会の書記、事務局長、組織宣伝部長を務める。

「脱貧攻撃」<sup>17</sup>の時期であり、私は現在携わっている刺繍業界に専念すべきでした。国民を貧困から救うことが肝要ですから、刺繍をしなくても人々を貧困から脱却させなければなりません。だから、刺繍を援助の手と捉え、関連する仕事に積極的に取り組み、大きな成果を上げてきました。その実践の中で、モンゴル刺繍の持つ大きな魅力と潜在力を深く感じ、もっと頑張ろうという気持ちになり、今この程度までやり遂げました。

もちろん長年の政治経験も、今の私が刺繍産業をやる上での心強い土台になっています。一方で、ここ数年は党政機関で働いて、原則と立場を重んじ、公正合理を自分の基準としてきました。同時に、私は法律知識と関連政策文書の要求事項を習得することができました。現在は多くの企業のなかには、業務の過程でこうした点に注意を払っているところもありますが、法律や国の政策の基礎が不足しています。それで、能力は高くても、比率や尺度を把握する際にどうしても抜け穴ができてしまいます。一方、私は政策文書の要件を抜け穴が出ないようにして、政策文書の要件を全て第一に考えておきます。経済発展をいかに促進するかを考える前に、政治的、文化的、概念的な教育を重視すると考えます。政治も文化も言わずに経済にしがみついたら失敗です。

私はモンゴル病院で働いていた頃から本を読むのが好きでしたが、当時は家が貧しくて本が買えなかったです。ある時、通遼に帰ると、私は他の人が指4本分の分厚い薬草の本を持ってのを見かけました。私はそれを買ったかったのですが、かなり高価でした。それで貸してくれるようお願いしたら、5日間だけ貸してくれました。それで書き写したんです。5日間、毎日2時間寝て、疲れたらちょっと休んでまた書き写していました。5日間は役に立つ部分をすべて写し終わって、またすぐこの1000余りの薬品の説明を暗記しました。だから、医術のほうも、薬の名前を覚えるのも得意だったと思います。

その後、党政機関に行き、田舎に来て、人々の生産と生活を見ながら、彼らにもっと接触し、自分の仕事に従って、少しずつ考えを開いていきました。最初は業務面でのことに専念し、その後は行政面でのことに専念しました。考えを開いた後は、他人の長所を学び続けました。行政業務の中では、どの上司の話が良いかを確認し、それを聞いて、家に帰ってきてから自分の考えをもう一度書きます。書き終わってから時には自分で暗記します。このように上司から学び、特に優秀な同僚たちからいろいろ学んだおかげで、何年かの後には私の書く能力と調整能力がどんどん上がり、上司は私を重用するようになりました。それから私はより多くの養成班に参加して、より多くの物事を処理して、更に上司に報告していました。やることが他人より少し多くて、疲れますが、知ることと接触することが広くなり、私を知っている人々も増えました。徐々に地域で認められ、どの機関の誰が後備の幹部に

---

<sup>17</sup> 貧困撲滅政策のこと。その目的は、2020年までにあらゆる面で中程度の豊かな社会を構築することを主目標とし、貧困地域と貧困層が国全体の発展と歩調を合わせ、共通の繁栄を実現できるよう、さまざまな措置を通じて貧困地域と貧困層の貧困脱却を支援することである。

なるべきですと言われるようになりました。

数年後、私は幹部候補になりました。その時、組織は大きな赤い花を持って来て、銅鑼と太鼓を打ち鳴らし、大きな爆竹を鳴らして、そして私たちを村の書記として田舎に送りました。80人の幹部が書記<sup>18</sup>として村に派遣されました。書記に選ばれた80人のうち、男性79人で、私はただ一人の女性幹部でした。その時、子供はまだ幼かったです。私は婦人連盟で1年間働き、3年目には村の書記に派遣させられ、村の書記になって2年もしないうちにまた戻って、その後再び昇進にしました。そして、計画生育局の副局長<sup>19</sup>に抜擢されました。計画生育<sup>20</sup>の仕事は国家の政策と任務なので、完成しなければなりません。そうして私は1つのチームを連れて、計画生育の宣伝と指導の仕事をしていました。それから政策を実施するために、出向した私は1年半ほど家に戻れませんでした。子供はまだ小さかったのに、面倒を見ることができず、ずっと村で仕事をしていました。

ある日、私たちが不妊手術をする時、村の人は私が保証人になってサインをすれば手術をする、保証人やサインがなければ手術をしないと仰いました。旗の使命を果たすためには、サインをしなければならなかったです。だから、私は責任を取ってサインをしました。ちょうどその時、父は重い病気にかかっている、当時は電話もなかったのも、ある男性が馬に乗って山谷まで私を探しに来てくれました。彼は

「あなたの父親は重病です。馬に乗って一緒に帰りましょう」

と私の帰宅を求めました。家族は、父がもう長くなく、これ以上もたないから早く帰ってきてほしいと言ったそうです。でももし私が戻ったら、私がサインした手術に何か問題が起きたらどうしよう、サインをした後、私がおらず、手術もしていないのだから、仕事を完遂することは不可能ではないか、しかも、他の仕事にも不利だと考えました。他方で、もし私が戻らずに父が亡くなってしまったら、父と会う機会は最後になってしまう、父に会えないし、最後の言葉も聞けないのは、大変苦しい。いろいろ30分ほど考えた後、私は

「行かない」

と言い、父に読んでほしいと伝えて、家族に読んでもらうメモを書き、託しました。

父が亡くなり、家族で葬儀を終えたその一週間後に私は任務を終えて家に帰りました。父は私に3つの言葉を残したそうです。父は孤児で、村の人々や友人、親戚に助けられて育ちました。だから父が私に残した最初の言葉は、私が職務の傍らに毎年1人の孤児の面倒を見るようにということでした。それで私は今まで合計23人の孤児の世話をしてきました。毎月の給料から500元～1000元<sup>21</sup>出

---

<sup>18</sup> 1996年4月～1997年3月、中旗バヤンホシュ鎮ヤウ・アイリ・ガチャの党支部副書記。

<sup>19</sup> 1997年3月～1999年3月、中旗計画生育局副局長。

<sup>20</sup> 計画出産、産児制限の意で、いわゆる一人っ子政策。

<sup>21</sup> 元は中国の紙幣の単位である。1元は日本円で21.55円（2024年12月10日現在）（訳注）。

して、孤児の学費や旅費として渡します。彼らのうちの3、4人を長く支援してきました。そして学校を卒業した2人は、私がずっと養ってきました。だから、私は父の最初の要求を満たしました。その後、仕事が忙しくなって気力と時間が追いつかなくなり、23人になったときにやめました。ある日、双子の子どもが私を訪ねてきました。彼らがとても大変な状況にあったため、私は3年間毎月給料から500元～1000元出して援助しました。今では2人とも働いています。

父が私に残してくれた第二の言葉は、将来、働いて昇進し、あらゆる面で進歩した後は、国民のために奉仕し、必ず国家の公共財産を貪ってはいけないということでした。父はずっと会計士をやっていて、生活はとても苦しかったが、国の財政を理不尽に取り仕切ったことは一度もないと言っていた。だから父は私にそうさせたのです。そのとおり私はずっと勤勉で素朴でした。特にここ10年は、洋服やズボンはほとんど買わず、給料を節約して困っている人たちに寄付しています。私は困っている人に会えば、必ず彼らの面倒を見、彼らを助けるつもりでした。

父が私に残してくれた第三の言葉は、父の周年の時に村の人々に私たちがかなり幸せに暮らしていることを知らせ、周年の宴をして、全村の人に食事をごちそうするということでした。でも、3年目は経済的にむずかしくできませんでした。というのはそのお金は他の人を助けるために使われたためです。5年目もできなかったですし、7年目も忙しくてできませんでした。そして10年目には、絶対にやり遂げようと決心しました。兄弟にお金を出させることなく、自分でお金を貯めて、自分の力でやり遂げようと決心しました。そして、兄弟が私たちの故郷である村に行くように手配し、近隣の3つの村の人々を招待して、感謝とお礼の宴を3日間開きました。

父が亡くなったのは1998年の洪水の年でした。大洪水で何も手につかず、仕事も忙しく、洪水もひどかったので、父は病気の治療を受けませんでした。率直に言うと、お金がなかったからです。今思うと、お金があれば、おそらく父も治っていたでしょう。父の考えの中では、亡くなった後は母を誰かに預けることはたいした問題ではありませんでした。父は私が必ず母の面倒を見ること、弟妹たちが面倒を見ることも分かっていました。そのかわりに、父は私に願う3つのことを気にかけていたそうです。その3つのことを考えると、旗県の職員でありながら、父の考え方はとても偉大で、他の人より見識が広いと思います。父が私に与えてくれた教育も、今思えば本当に素晴らしいものでした。これが私の人生の中で物事を行う方向性を示してくれました。さらに私に将来の道を示してくれました。だから私は、このような父と、このような偉大な母を持ったことを誇りに思っています。

私はとても健康で、風邪もひかないし、何の病気もないです。今60代ですが、お年寄りのような状態にはまったくなっていません。うちの家族はみんな長生きで、祖母の姉妹4人とも90歳を過ぎていて、80代になった母も健康です。今、家には母と私しかいないので、邪魔なことは何もなく、自分の仕事に専念できます。

「脱貧攻堅」が始まる前から、私がモンゴル刺繍をできることを知っている人もいました。「脱貧

攻堅」が始まった時、私たちの秘書が「一部の貧困世帯は大きな産業に接続することができない」と言いました。そのとき私は「刺繍をすればちょっとした収入源になるはず」と言いました。誰が買うんですかと言われたけど、私は「絶対売れるし、300～500 円で問題ない」と言いました。そして、刺繍を私にやらせてくれることになり、研修を進めました。研修は土曜日と日曜日に行われ、多くの人が集り、200 人ほどの予想だったのが 300 人も集まりました。このように私は 12 のソム<sup>22</sup>・鎮で、ほぼ 1 万人以上の人に刺繍の研修を受けさせました。研修中、私は 1 枚の刺繍を 20 分ほどで仕上げることができたので、研修に来た人たちは刺繍に魅了され、次第に人が増えていきました。私は研修から戻った後、秘書に報告したら、秘書は私を中旗の推進チームの組長として任命し、2895 世帯が「脱貧攻堅」の対象に選ばれました。2016 年に始め、2017 年に 1 年間研修を行い、2018 年に刺繍小品を出品し、2019 年にはかなりの数を販売できるようになりました。2020 年には貧困世帯の収入を増やすことを目標とし、2021 年末には「脱貧攻堅」のもとで決めた刺繍の出品と収入標準に達し、中旗は私を表彰しました。

私は花を描くのが得意で、1 時間で 100 種類以上の花を描くことができ、誰も真似できないです。忙しい時には研修その場で布に描くこともあります。花を描くことは刺繍の基本です。重要なのは、自分の絵ではない絵、著作権を侵害する絵を描くことで、もし描いたらすべてを引きずり下ろす絵になるため、これを避けるべきです。例えば、これが自分のものでない場合、胸を張って「高級品ではないことは認めますが、間違いなく私だけのデザインですから、唯一無二のものです」と言える自信がないです。

私は党や政府組織で鍛えられた幹部ですから、一定の経験と政治素養があり、政治の方向性を把握することができます。私は人材を使うことができ、例えば、その子たちの特徴や長所、強みを見抜き、それを発揮させ、大目に見て育て、その子たちを通して国民を動かすことができます。私の考えでは芸術を理解する必要があり、手工芸品の芸術を理解するべきです。そうでなければ、公平性も合理性もなく、誰もついてきません。だから、公平性と合理性があれば、そういう人たちがスタートラインに立ち、方向性を示し、期待することができます。業界は、こうした総合的なものを持って発展します。そうして初めて、エネルギー、時間、パワーが投資されます。これが私の使命であり、組織は私を必要とし、人々も私を必要としています。個人的には、私はまだ体力があるから、やり続けなければなりません。退職後の月収は 1 万 3,000 円で、月に 2、3 千元しか使わないです。残りは困難を抱えて助けを必要としている人たちに寄付しています。刺繍の販売による収入はすべての人々と業界に公開されています。

---

<sup>22</sup> ソムとは、牧畜を中心としていた人民公社および国営牧場が解体され、旗の行政単位となったものである。

私が「貧困脱却の堅塁模範」という称号を得る前、最も難しかったのは人々の理解力でした。なぜなら相手が弱者層からです。彼らは文化がなく、法律知識が弱く、身体素質が特に劣っていたからです。たとえば、私はわからないことを教えても、翌日になるとみんな忘れてしまい、また一から説明しなければならなくなります。私が相手にしているのは他の 2 つのグループとは異なるグループです。更年期の女性と聴覚障害者（20 人以上）もいましたが、多くの人が「どうして私が聴覚障害者に刺繍を教えているのか」と疑問を持っていました。耳も不自由だから手も不自由なのに、どうして刺繍ができるかと疑問に思っていました。

最初は廊下で刺繍をしていましたが、半年もすると「寒くて刺繍ができない」と受講生に言われました。それで現在の「科右中旗モンゴル族刺繍貧困扶助職場」に移りました。以前ここは鶏を飼育する場所で、旗委員会書記がその管理人に連絡して彼に貸しださせて、同時に旗委員会も鶏飼育する事業を支持しました。私達の職場の年間賃貸料は 30 万です。しかし、ここは会議に適しているだけで、数千の作品すべて展示することには適していません。

2019 年に私たちの作品を展示する刺繍博物館<sup>23</sup>ができました。博物館の内はすべて私が設計しました。政府は施工隊を探して施工を行いました。博物館ができたので、私たちの作品も展示されました。見学に来た人たちの多くが私たちの作品を評価し、それも私たちの事業をより広く宣伝できました。多くの人に知られるようになったため、私たちはもっと生産しなければなりません。しかし、工場も博物館も生産には適していなかったため、産業園區<sup>24</sup>の設計建設を始めました。これらは私がやっているうちに少しずつ模索してきました。やっているうちに何か足りないことがわかると、私たちは補充します。私たちは 4 年間で 6 つの基地<sup>25</sup>を建設しました。現在、私たちの産業園區と工場<sup>26</sup>はすべて借りています（写真 3、4）。博物館は政府のもので、借りたこれらの基地と体験センター<sup>27</sup>は

---

<sup>23</sup> 2019 年に科右中旗モンゴル族刺繍文化博物館として設立されましたが、現在は中国蒙古族刺繍展示室に名称を変更しています。展示場の建築面積は 2700 平方メートルで、陳列エリア、展示エリア、イベントエリアに分かれており、陳列エリアには 1072 点の展示品が展示されている。

<sup>24</sup> 中国語で产业园区という。産業園區とは、ある産業の発展を目的として創設された特別な立地環境のことで、地域経済の発展、産業の調整・アップグレードのための重要な空間集積形態であり、イノベーション資源の集積、新興産業の育成、都市化建設の推進など一連の重要な使命を担っている。

<sup>25</sup> 基地は政府または民間組織、機関によって自発的にあるいは計画的に準備された計画的で産業クラスター効果を持つ経済体です。産業基地は、産業の特性、規模、および多元化の特徴を示している。

<sup>26</sup> 科右中旗モンゴル族刺繍貧困扶助職場は、科右中旗委員会と政府が 2016 年 12 月に設立した、科右中旗バヤンホシュ鎮にある。

<sup>27</sup> 科右中旗モンゴル族刺繍体験センターはバヤンノール・ソム（巴彦淖尔苏木）にあり、2019 年下半期に設立されました。同センターは大学生にモンゴル族刺繍文化に関する研究、講座、展示展示

すべて私たちが 2019 年後半年に改造されました。バヤンノール・ソムの体験センターは大学生、一級刺繍職人以上、高級デザイナーを研修するハイエンドの人々に適す場所で、一度に 50 人の研修ができます。研修が終わったら研修証明書を発行します。かつて内モンゴル民族大学、内モンゴル農業大学、内モンゴル師範大学、一部の党学校と職業学校の人たちが訓練を受けにきたことがありました。専門は関係ありません。学生が団体で来たこともあります。私が自ら教えます。毎回の研修で、一日は私が彼らに授業をします。午前中に教えたら、午後からインタラクティブな授業により添削し、それぞれにどのような問題があるのか、どのような刺繍を収入につながるのかなどの指導をします。ほかの一日は大学生に私たちの 6 つの基地を見学させ、もう一日は学生が自分で刺繍をします。絵の中には重要な意味があるものもあります。刺繍の習得には時間がかかり、すぐに習得できるわけではありません。一般的に 1 年間勉強しなければ刺繍を上手に習得できません。



写真 3、4 科右中旗蒙古族刺繍貧困扶助職場外見と 2 階現場（2023 年 8 月 7 日筆者撮影）

2016 年から 2017 年まで私たちは何の成果もありませんでしたが、2021 年に「全国貧困脱却攻防模範」<sup>28</sup>として表彰されました。その後、販売ではオンラインなどの注文が 70% 余りを占めていたため、コロナ禍でも刺繍販売への影響はそれほど大きくなかったです。コロナの影響で町が封鎖される前に

---

などのサービスを提供している。

<sup>28</sup> 「国家貧困脱却攻堅模範」とは、貧困脱却の攻略戦で傑出した貢献をした個人または集団を指し、彼らの事績は中国共産党の指導力と社会主義制度の顕著な優位性を十分に示しており、中華民族の貧困を扶助し困窮を防ぎ、助け合いを見守るという伝統的な美徳と社会主義の核心的価値観を集中的に体现しています。これらの模範を顕彰するため、党中央と国務院は彼らに「全国貧困脱却攻堅模範」という荣誉称号を授与することを決定した。

刺繍に必要な生地などの完成品の予約を事前に受け、刺繍職人の家に生地を送っていたので、封鎖期間中にも刺繍ができました。封鎖が解除されたら、作品を持ってきます。しかし、対面販売はある程度影響を受けましたが、生産には影響がありませんでした。新型コロナが流行している間、私たち 300 人以上の刺繍職人が収入を得て、多くは年 6000～7000 元の収入を得ました。中には 2、3 万元に達した人もいます。だから刺繍事業は安定した仕事です。2021 年に表彰された後、モンゴル族刺繍の評判が国内外で高くなり、多くの人が私たちに連絡し始めたので、ここ 2 年で注文が多くなりました。昨年、つまり 2022 年、疫病発生期でも約 600 万件以上の注文がありました。

現在、Wechat、Tiktok で宣伝していません。しかし、これからは SNS で宣伝する予定です。今後 SNS を活用して、トゥシエト<sup>29</sup>民間刺繍をさらに発展させます。南方湘繡<sup>30</sup>など中国南方の刺繍との違いは、こちらは刺繍する生地が布、フェルト、デニムなどである点です。さらに皮革にも刺繍します。現在、市場のニーズを満たすために、私は伝統を残した上で何度も革新を行いました。たとえば、私は牛革に花を刺繍して 10 個以上のバッグを作ったことがあり、内モンゴル有名歌手のウラントウーヤが購入していきました。国からは幹部が退職してから 3 年間は事業に従事してはならないという規定があります。だから私はしばらくブランドを作っていませんでした。しかし、将来的にはブランドを作るつもりがあり、すでに商標を登録しています。今後、高品質で限定品を作るかもしれません。つまり、ハイエンド路線です。

私は刺繍事業の専門家として働いていますが、具体的な職務はありません。現在、経営陣には 5 人の大学生がおり、責任を引き受けています。ウォルドン刺繍産業発展有限公司は 2018 年 8 月に設立され、主な業務はモンゴル族刺繍製品の設計、生産、販売、研究開発です。当工場の責任者は福林という人で、彼は主に大学生、一級刺繍職人の会計を担当し、私も帳簿を監督します。会社のルールは厳しいです。主にいくつかのルールがあります。1 つ目は経営陣、大学生スタッフ、一級刺繍職人たちの禁酒です。2 つ目は、盗んではいけないことです。盗んだら排除されます。その 3 つ目は、第三者として他人の家庭を破壊することをしてはいけないことです。4 つ目は、社会の様々な人と交流し、社会にマイナスの影響を与えないことです。

私たちには 37 の販売店があります。例えば、通遼霍林郭勒、扎魯特旗、赤峰市翁牛特旗、呼和浩特、海拉爾、錫林郭勒、北京、瀋陽、長春、天津、海南、深センなどです。天津・深センなどでは展示場を準備し、商品を仕入れます。これは宣伝のためで、同時に収入をもたらすこともできます。研修の範囲は興安盟を中心とした全内モンゴルです。

内モンゴル西部地区の刺繍は比較的細く、ホルチンの刺繍は比較的大きい特徴があります。私たち

---

<sup>29</sup> トゥシエト民間刺繍は、科右中旗の特色あるモンゴル族の伝統美術である。この刺繍は清代に起源を持ち、今まで 300 年の歴史を伝承している（訳注）。

<sup>30</sup> 中国の南方の刺繍のこと（訳注）。

の刺繍事業は将来中旗ハイエンド産業に発展する可能性があると思います。ローンがなく、時代遅れにならなく、大きな損失もなく、投資も少ないからです。この5年間で飛躍的に進歩したと言えますが、当時はデザイン、絵、トレーニング、注文、展覧会などで精一杯でした。また全国各地の展覧会で講演をしなければならないので、とても忙しかったです。2017年から2019年の三年間はいくつかの困難に直面しました。

私たちの購入者の多くは企業（中央企業、国企、私企業）で、こちらが注文を受けたら契約を結び、手付金が30%支払われます。その後、刺繍職人を組織して刺繍を行います。価格は作品の複雑さによって決まります。私たちにはリピーターが多いです。私たちの作品の種類は1700以上あり、アクセサリー、枕、家具用品、結婚式用品、バッグ、服を含みます。以前描いた花の種類は今では1万7千種類以上あります。私は暇な時に絵を描きそれから大学生たちは刺繍を学ぶ人々に縫いを与えます。縫っている間、私は刺繍好きな人々に研修に行きます。例えば、色の組み合わせ方などです。

これらのことを通じて、私は自分の後継者を育てあげました。私の部下には50人以上の刺繍職人がいます。私は以前美術を勉強している大学生を何人か招待しました。そして彼らは1年たつと行ってしまいます。彼らが想像していたものは私たちの伝統とは異なります。私たちは伝統文化を維持しなければなりません。彼らが想像していたのはファッションです。彼らにとって1人の人を描くことは一本、二本の線を描くことです。でも、私たちはそうではありません。私たちは伝統文化の特色を持っていないければなりません。だから私たちの刺繍の特徴は伝統、民族、手作り、文化的な意味を持ちます。伝統文化の最大の特色は、人々の理念を教育し、影響し、継承することです。伝統とは五千年来のこの理念であり、このように人を教育し、励まし、導き、励ますことは、互いに学び合い、尊重し合い、老いも若きも尊ぶことです。これらのものはすべて私たちの伝統文化であり、私の刺繍の中にこれらが含まれています。しかし、大学生たちはこれらを考慮しません。

大学生のバックアップ力を育成するために、私たちは体験センターを建設しました。20年前、ここは郷鎮府で、私はここで書記をしたことがあります。その後、体験センターを作りたいと考え、庭を借り建設し、今のようになりました。大学生たちは私たちのモンゴル族刺繍体験センターの実習に対して「メニュー式」の選択を行うことができます。実習の内容は期間によって異なり、3~5日間、1週間、1ヶ月間、そして半年と1年があります。通常3日から5日間の体験実習では、まず学生を中旗モンゴル族刺繍貧困扶助工場、刺繍産業園区、刺繍博物館、生態観光地区及びいくつかの刺繍職人の家に案内し見学させます。実習過程で大学生に多くの道理を教えます。私たちの基地、産業園区、刺繍でお金を稼いでいる刺繍職人が何をしているかを見るために、家に見に行きます。実習は主にこれらの学生にお金の稼ぎ方、生活の仕方、人間のあり方を教えます。見学が終わったら体験センターに戻り教育を行い、子供たちに自分の考えを伝えます。私のほかに先生は2人います。1人はフェルトで物を作る方法を生徒に教えます。もう1人は砂と土で物を作る方法に生徒に教えます。これで3日

になります。4日目には、彼らの作品が完成し、4日目の午後か5日目の午前に証明書を発行して帰ることができます。

一年を通して11月中旬から翌年の4月15日まで体験実習に来ることができます。草原の美しい景色を見ないと、デザインのインスピレーションが大幅に低下します。冬の間は寒すぎて、デザインの創作に美しい草原の風景という感覚が欠けてしまいます。そのため、夏に実習体験をするのはとてもいいです。各地の大学生のほかに、ここに来て体験を組織したのは各地の党学校と現在の短期訓練班です。他の業界の人もいます。例えば、電力関連の人も体験にきます。私たちは冬を除いてほとんど年中休みません。今年（2023年）の8月初めには、9月1日から10月中旬まで予定がいっぱいになりました。一昨年（2022年）の時は人員に余裕がありましたが、今年は忙しいので、体験センターの仕事に手が回らなくなりました。先日、赤峰の研修団体が何人か電話で体験を申し込んできました。でも、私はこの間暇がありませんでした。この体験センターは主に民族伝統文化の思想理念を大学生に普及させ、体験を学ばせたいと考えています。体験センターは大学生を対象とし、実習を中心としています。そして、二龍屯刺繡訓練基地<sup>31</sup>は当地区の農牧民向けで、主にそこで就職訓練を実施しています。

体験センターは学生を募集し始めてから3年余りになります。特にインターネットでこちらから宣伝することはなく、いくつかの有用な情報だけがインターネットに公開されています。私たちの体験センターは特に規範的で、静かで、特に大学生に適しています。むやみに歩いたり、問題を起こしたりすることはなく、比較的安全です。だから、大学生は5、6日間実習に来て、実習証明書を取得し、民族伝統文化の理念を勉強して、簡単に3~4種類の手芸を操作できるようになります。そうすると将来には何かのチャンスがあるかもしれません。体験費用は、学生たちが食事代50元前後と宿泊費30元を用意すればいいだけです。その他は考慮する必要はありません。レンタカーの見学費用も含めて私たちが出します。

私たちはこれらを実行する時に政府に資金を求めています。2016年から2018年5月までの間、私は一銭ももらったことはありませんでした。私は自分が所有する家を2軒売り、この資金で研修を終えました。私は人民代表大会主任<sup>32</sup>で、旗財政全体の資金を監督しているので、国の資金をもらうことはできないのです。「国家貧困脱却の模範」という荣誉を受けた後、旗政府は私たちの事業を支援しました。

今は伝統と現代文化の衝突という話題が議論されていますが、私のところでは、伝統的な文化が既存の人たちと大学生を養うことができればいとかんがえています。大勢の人に伝統を求めることを

---

<sup>31</sup> ヒンガン盟バイガリ職業訓練学校を指し、2022年6月に設立され、科右中旗額木庭高勒蘇木二龍屯ガッチャに位置する。主に民族工芸品、道具制作、刺繡、裁縫などを訓練する。

<sup>32</sup> 2018.01—2021.9任科右中旗人民代表大会常務委員会党組織書記、主任。

期待しません。人によって趣味は異なります。私たちの作品には私たちなりの特色があります。買うか買わないかは、私たちの作品に対する他人の深い理解とニーズにかかっています。今後各方面が発展したので、我々は突破口を見つけてから発展することができますが、今はまず現在の状態を維持すればよいと思います。

今後、全国的な刺繍会議を開催したいです。全国各地の専門家、研究者と企業家が交流し勉強して、地方産業との協力を促進したいです。しかし、一般的な全国大会を旗県で開くことはできません。中旗で全国刺繍大会を開催しようとしたとき、全国刺繍協会が批准しませんでした。私たちには2万人以上の刺繍職人がいて、モンゴル族刺繍伝承保護基地がこんなに大きいことから、全国大会を開くべきだと言いました。協会は科右中旗が全国刺繍大会を開催できることを証明するためには、まず万人刺繍訓練大会<sup>33</sup>を開催すると宣言すると同時に、企業家の注文があり、専門家たちが私たちをみとめなければならぬとしました。そうすれば、私たちは全国刺繍大会を開催できます。それで、2019年8月1、2日に科右中旗は万人刺繍訓練大会を開催し、中旗は「中国手刺繡革新創業モデル基地」、「中国モンゴル族刺繡の故郷」、「中国モンゴル族刺繡文化伝承保護基地」と名付けられました。

そこで、私たちは1万人が同じ刺繍をすることにしました。そこにいた一級刺繍職人はすべて科右中旗の人で、合計10573人で、これはギネス記録を突破しました。現場には全国の10人の専門家と10人の起業家が招かれ、計1000万円の注文がありました。全国各地から来た10人の刺繍職人が現場で認定を受けてくれました。「科右中旗のモンゴル族の刺繡は規模が大きく、参加者数が多く、特に内モンゴルに適した刺繡です」と認めました。専門家たちの認定を得て、国は科右中旗で全国刺繍大会を開くことを承認しました。ただし、今のところ開催するのは難しいです。まず、新型コロナの影響があり、また、こんなに多くの人を組織して一箇所に集中させるには、各層の承認が必要であり、各方面に多くの手順があるからです。

私に対する位置づけは、幹部になるにしても商売をするにしても大衆を全面的に考える必要があるということです。今後の10年に多くの計画があります。私は1000人を優秀な刺繍職人に育てること、100人の大学生を企業の運営に取り入れること、少なくとも10人の大学生を企業家に育てること、内モンゴルの範囲で5000人の刺繍職人を育成することという4つです。その中で2000人の刺繍職人をベテランに育て内モンゴルの名前で一つのプロジェクトをすること、今ある37の展示ホールを100に拡張すること、全国的に展示ホールの経営に大学生を採用して就職を促進すること、1年に100ハイエンドを生産することです。

---

<sup>33</sup> 2019年7月19日、科右中旗は万人刺繍訓練大会を開催した。一級刺繍職人10573人、「モンゴル族最大の刺繡芸展覧会」の世界ギネス記録を樹立した。

聞き取り日時：2023年8月6日から12日

聞き手：蘇日娜

場所：内モンゴル自治区ヒンガン盟ホルチン右翼中旗バヤンホシュ鎮

#### 訳者あとがき

本稿は退職地方幹部で、現在も伝統工芸継承者として第一線で活躍する女性のオーラルヒストリーである。その内容はきわめて政治宣伝色が強く、地方幹部がいかに国家政策を内面化して政策施行者として最前線で努力しているのかを伝えるものである。その責任は重く、一人っ子政策の現場で直面した政策遂行と自己の責任を鑑み、実父の死に立ち会ったのさえ断念させるものであった。現在は、貧困撲滅政策を受けて、モンゴル族の刺繍制作販売を通じて若手の人材育成と研修に力を注いでいる。中国共産党地方幹部の在り方を示す資料として翻訳した次第である。

(すりな・中央民族大学中国少数民族语言文学学院／

そろんが・千葉大学人文科学研究院特別研究員)

## An Inheritor of Mongolian Embroidery Intangible Cultural Heritage: Oral History of Bai Jingying

Surina

Bai Jingying is a Mongolian woman from the Horqin Right Middle Banner of Xing'an League, Inner Mongolia. Since childhood, she has been influenced by her mother and grandmother and has mastered exquisite embroidery skills. Since 2016, she has devoted herself to the development of the Mongolian embroidery industry, serving as the head of the Mongolian embroidery industry promotion group of Horqin Right Middle Banner and the president of the Mongolian embroidery association. By establishing relevant companies and poverty alleviation service associations, she has combined embroidery with poverty alleviation, promoting the industrialization of Mongolian embroidery. Bai Jingying has also received many honors, including being a candidate for "China's Intangible Cultural Heritage Person of the Year", "National Model of Poverty Alleviation", and "China Textile Intangible Cultural Heritage Ambassador". Bai Jingying is well aware of the importance of traditional culture and has integrated the inheritance and innovation of traditional culture into her work. Through interviews, this article meticulously sorts out Bai Jingying's growth experience, family background, and the profound influence of her parents on her life. It elaborately introduces how she uses embroidery skills training to help local residents broaden their income channels and improve their quality of life, as well as her future plans and beautiful aspirations.